

LIFE TIMES

三菱ケミカル物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成29年5月1日(月)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション開発部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第129号

[目次]

1. 福田新社長就任の挨拶
2. 白土ソリューション開発部長就任の挨拶
3. 国交省 自動走行実現に向けた取組方針公表について
4. 2016年度「物流効率化」提案実績について
5. 場所紹介 ～首都圏ロジスティクスセンター(埼玉県加須市)～
6. TECHNO - FRONTIER2017 参加レポート
7. 物流ITフォーラム2017 参加レポート

1. 福田新社長就任の挨拶

初めまして。この4月に社長に就任した福田です。日頃の格別なるご厚情に感謝申し上げます。

昨今の日本経済の状況は、昨年来緩やかな回復基調が続いていると言われながらも、景気実感としては今一步力強さを欠いております。一方、英国のEU離脱、米国のトランプ現象など、これまでの経験では想定できないような政治的出来事が続きましたが、更に今後もEUでは重要な選挙が続きます。このような要因により、世界経済や国内経済は今後の見通しを立てづらい状況にあります。

さて、この4月に「三菱ケミカル物流株式会社」として新たにスタートを切った当社は、今年度、中期経営計画『MCLC APTIS 20』の2年目という大切な1年を迎えます。物流業界を取り巻く環境は益々厳しくなることが予想されますが、お客様に信頼される会社となるために、「安全・コンプライアンス」を徹底した上で、お客様の視点に立ち、よく耳を傾け常に改善を行い、ソリューション力の強化及びサービスの向上を果たして参ります。ご存知の通り、私共のLIFEグループはそれらを実現できる組織であり、永年の経験で優れたノウハウを地道に積上げて参りました。

ところで、私はこれまで36年間の会社生活のうち32年間でテレフタル酸(ポリエステル繊維やPET樹脂の原料)事業に関わって参りました。その中で海外で工場を立上げた経験も、市場環境の悪化による閉鎖を見届けた経験もあり、事業は「生き物」だということを学びました。また、当社に来てまだ日も浅い中ですが、物流事業にも様々なノウハウがあり、多くの細やかな気配りがあることを再認識しております。これまでの経験を活かしながら、これからも率先垂範で、常にプロ意識を持ち、日々社員共々研鑽して参ります。

当社は「信頼されるソリューションプロバイダーとして価値あるロジスティクスを創造し(KAITEKI物流) お客様と社会の発展に貢献します」という経営理念のもと、常に時代を先取りする総合物流会社として、お客様のご期待に応えて参ります。変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。



経歴

1981年4月三菱化成工業(株)(現三菱ケミカル(株))入社。以来、寧波三菱化学有限公司取締役社長、三菱化学(株)石化基盤本部ユーティリティ部長、黒崎事業所長、化学品本部長を歴任し、今年4月1日当社取締役社長に就任。

2. 白土ソリューション開発部長就任の挨拶

薫風の候、皆さま益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この4月にソリューション開発部長に就任いたしました白土です。

さて、この度当社では、一層のソリューション力の強化を目的として、「ソリューション開発部」を新設いたしました。

ソリューション開発部は、新規事業の市場調査、営業戦略策定機能の強化、物流IT技術の開発促進を使命としております。LIFEグループは、これまでもIE※を使った構内物流解析、シミュレーションソフトを使った販売物流解析(拠点最適立地、最適便等)、在庫解析を行い、効率化の提案を行って参りましたが、今回、従来手法のブラッシュアップに留まらず、物流ICT(情報通信技術)※開発促進を担う部署として、心機一転スタートを切りました。

日本国内の物流量が年々減少している一方、物流の多品種少量化は顕著に進み、物流機能の維持が難しくなってきました。運転手不足への対応や労働環境改善といった物流の抱える課題に応えるには、単なるITによる業務効率の改善だけでなく、通信技術を使って現場やお客様といかに接点を持てるか、いかにコミュニケーションを取れるかがキーになってくると思われま

す。著しい進歩を遂げているIoT、AI※、ビックデータ等のICTを駆使し、お客様のご要望に応えるようにLIFE活動をより良いものにしていきたいと思います。引き続きLIFEグループを宜しくお願い申し上げます。

※ IE：Industrial Engineering 問題解決の科学的アプローチの一つ

ICT：Information and Communication Technology 情報・通信に関する技術の総称

IoT：Internet of Things あらゆるモノがインターネットお通じて接続され、モニタリングやコントロールを可能にするという概念

AI：artificial intelligence 人工的にコンピュータ上で人間と同様の知能を実現させようという一連の基礎技術



3. 国交省 自動走行実現に向けた取組方針公表について

3月14日、国土交通省と経済産業省は自動走行において、交通事故削減や乗務員不足解消などを目的に「自動走行の実現に向けた取組方針」を公表しました。

この取組方針では一般車両における自動走行(SAEレベル2, 3, 4)の将来像、自動走行における競争・協調領域の戦略的切り分け(取組方針)、実証プロジェクト、ルール(基準・標準)への戦略的取組、産学連携の促進の5項目について報告されています。

事業車の自動走行については、2020年頃一部地域におけるSAEレベル4を実現予定です。

今後の実証プロジェクトでは隊列走行等が予定されており、後続無人車両の隊列走行実現に必要な電子牽引システム等の開発、ビジネスとして成立する隊列の運行形態等が検討されます。

まだ事業車の完全自動走行にはいくつかハードルがありますが、今後もお客様へ最新情報を提供していくと共に、当社としても固定概念に囚われない最適なご提案を行う事で、今まで以上に信頼されるよう努めて参ります。

SAE(Society Automotive Engineers)レベル *経済産業省HPより

レベル	概要	安全運転に係る監視、対応主体
SAE レベル0 運転自動化なし	運転者が全ての運転タスクを実施	運転者
SAE レベル1 運転支援	システムが前後左右いずれかの車両制御に係る運転タスクのサブタスクを実施	運転者
SAE レベル2 部分運転自動化	システムが前後左右の両方の車両制御に係る運転タスクのサブタスクを実施	運転者
SAE レベル3 条件付運転自動化	システムが全ての運転タスクを実施(領域*限定的) システムが介入要求等に対して予備対応時利用者は適切にตอบสนองすることを期待	システム (フォールバック中は運転者)
SAE レベル4 高度運転自動化	システムが全ての運転タスクを実施(領域*限定的) 予備対応時において、利用者がตอบสนองすること期待されない	システム
SAE レベル5 完全運転自動化	システムが全ての運転タスクを実施(領域*限定的でない) 予備対応時において、利用者がตอบสนองことは期待されない	システム

4. 2016年度「物流効率化」提案実績について

2016年度、当社ソリューション営業部では主だったもので4件の「物流効率化提案」を実施しました。昨年度の特徴としては、一昨年に引き続き輸送分野での検討・提案が主流を占めています。

昨今、TVや新聞、インターネット等の各種メディアでも、トラックドライバー不足を始めとした物流業界の厳しい現状について取り上げられる機会が増えてきています。このような気運を背景に、荷主企業、物流会社双方から、コスト削減のみに偏重せず複合的観点で現状の物流体制を見直そうという動きが今後も拡大して行くと考えられます。

物流効率化 提案実績

当社では本誌第125号でご紹介した神奈川ロジスティクスセンターを始め、物流拠点増設と合わせた全国的なネットワーク輸送網の強化拡充を取り進めています。昨年度はこれを活用した提案を行うための検討も多数行いましたが、今後も一層お客様のお役に立てるよう、注力したいと考えています。

今年度も「信頼されるソリューションプロバイダーとして、価値あるロジスティクスを創造し(KAITEKI物流)、お客様と社会の発展に貢献」出来るよう取り組んで参ります。

	提案先	分野					検討人員	検討期間
		輸送	SP	構内	仕組	在庫		
1	自動車部品メーカー	○	○		○		2人	4か月
2	化学メーカー	○					3人	4か月
3	化学メーカー	○					2人	2か月
4	樹脂加工メーカー	○	○		○		2人	3か月

ネットワーク輸送に関する検討

	関東地区 複数企業	○					1人	－
	中部地区 "	○					1人	－
	近畿地区 "	○					2人	－

5. 場所紹介 ～首都圏ロジスティクスセンター(埼玉県加須市)～

当センターには、社員15名と子会社35名の計50名が所属し、樹脂を取り扱う自営倉庫と一般荷主の食品トレーを扱う倉庫、医薬品を取り扱う外部倉庫があり、それぞれ倉庫・配送業務を行っています。

当センターのある埼玉県加須市は、1都6県のほぼ中心に位置し、東北道加須ICに近接し、関越自動車道、中央自動車道、常磐自動車道などの主要高速道路(最近では圏央道がほぼ開通しました)に繋がり、物流はもちろんのこと、観光にも良い立地です。

加須市の名物は、ジャンボ鯉のぼりと加須うどんです。加須うどんは、香川県のうどんにも引けをとらないコシと喉ごしの良さが特徴です。

また、毎年5月3日に全長100mのジャンボ鯉のぼりが利根川上空を優雅に泳ぐ姿は見応えがあります。

当センターでは、2018年6月に、4F建ての倉庫と危険物倉庫が完成する予定ですので、お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄り下さい。

ジャンボ鯉のぼり

加須うどん

当センター

樹脂保管倉庫

医薬品保管倉庫

食品トレー保管倉庫



6. TECHNO - FRONTIER2017 参加レポート

4月19日～21日までの3日間、幕張メッセで「TECHNO-FRONTIER2017」が開催されました。本展示会は、メカトロニクス・エレクトロニクスに関する「モーター技術」「メカトロニクス技術」「電源システム」等の技術シンポジウムです。

その中で私達の目を引いたのは、センサー等を設置し、IoTシステムを使って常時情報を取得してPC等に送る技術で、どこでも設備の状態、エネルギー等の使用量、工場内の様々な現場の情報管理ができるという「可視化」をテーマにした展示でした。

当社LIFEグループも効率化検討作業においては、まず現状を分析・解析し、その後、効率化案を立案し、それを実行するための体制案などを検討します。現状を分析・解析する工程において、何が発生しているのか、何が問題なのかを、論理的に、また分かりやすく見せる方法を工夫する部分に「可視化」の更なる進化がある、と展示会を通じ再認識しました。

4月の組織改正に伴い、LIFEグループは、更なる「可視化」の強化に取り組んでいます。現在発展し続けているIoTやAI等の技術を活用し、分析・解析の精度向上、高度化に向けて継続して取り組んでいきます。



7. 物流ITフォーラム2017 参加レポート

3月に「物流ITフォーラム2017」に出席して参りました。当セミナーでは、物流業務の課題に対してITを活用した改善事例や有識者による講演、物流の様々な分野において取り進められている物流自動化や機械化などといった、日本国内における高機能化チャレンジの最新動向についての紹介がおこなわれました。

その中で特にインパクトがあったものとしては、フォークリフトのIoTによる効率化(動力からバッテリーまでほぼすべての稼働状況をセンサーによって数値化、稼働率や操作特性等を自動で分析し必要台数を需給バランスに応じて算出した)や、多くのマンパワーを要するものの手つかずであったピースピッキング作業のロボット化への取り組み(BtoC向け商品単体のバラピッキング時における商品位置や形状といった膨大な情報を、現在コンピュータが学習している最中)でした。

出来そうで出来ていなかった、あるいは、結局人が介在し判断せざるを得なかった作業の“自動化”や“機械化”による効率化が、物流業界でも手の届くところまで来ているというお話でした。

随分と昔から“AI”や“IoT”という言葉が売り文句のように使われていますが、現在のブームは物流の業界でも本物(?)のようです。



編集後記

ソリューション営業部 北原

桜もあっという間に散ってしまい、新年度を迎え早やひと月が経ちます。組織体制が見直され、人事異動でざわついたところもありましたが、少しずつ落ち着きを取り戻し、新社名にも慣れてきたところです。新社名とともに、新しいことに挑戦し、既成概念に捉われず、進化し続ける自分で在りたいものです。そしてお客様に満足頂けるような信頼されるソリューションプロバイダーを目指して参ります。

さて、いよいよゴールデンウィークに入ります。羽を伸ばしにお出かけされる方、うちでのんびり過ごされる方も、(私は後者ですが...)皆様、貴重なお休みを、有意義にお過ごしください。